

歯科医療者の理想像を見いだす

—「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」開催される—

3月30日(日)、山形県酒田市、日吉歯科診療所(熊谷崇院長)セミナールームにて、「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」を開催しました。全国各地から学生、研修医、若い勤務医44名がセミナーに参加しました。2005年にスタートした本セミナーも、今回で7回目を迎え、参加者はのべ350人をを超えるまでになりました。

セミナーを開催する一番の目的は、これからの歯科医療を担う人たちに、夢や希望をもってこの仕事に取り組んでほしいと願っているからにはほかなりません。歯科界を取り巻く環境が大きく変化するなかで、若い歯科医師たちは、その将来を不安視するあまり、歯科医療の本来の価値を見失いがちであると感じています。歯科医療は多くの人々の健康に貢献できるすばらしい分野です。

歯科医師を対象としたセミナーの大半は、技術

や経営に関するもので、歯科医師の使命や歯科医療の価値を考えるものは多くありません。歯科医師免許を取得する前、取得直後だからこそ、歯科医療の本質に目を向けてほしいと思います。

今回のセミナーは、講演「Oral Physician とは」、「若い歯科医師の研修プログラム」、「禁煙と Oral Physician の共通点」、診療所見学、質疑応答と活発に行われました。感想をお読みいただくことでセミナーの雰囲気も伝わるとと思います。今後も多くの若い歯科医師に参加していただき、夢や希望をもって歯科医療を担ってほしいと願っています。

今回掲載されなかった参加者の感想も、日吉歯科診療所のホームページ(<http://www.hiyoshidental-office.org/>)に掲載されていますので、併せてご覧いただければ幸いです。

仲川隆之(山形県勤務医、日吉歯科診療所)

●予防の重要性に衝撃を受ける

熊谷先生のお話は、以前にも私が通っていた東北大学でお聴きする機会があり、また、その際の懇親会で熊谷先生に直接お話でき、非常に興味をもったことから今回、参加を決意しました。

「Oral Physician としての歯科医師のあり方」、「メディカルトリートメントモデルにおけるメンテナンスの重要性」のお話は何度伺っても衝撃を受ける内容で、私は技術向上にとらわれすぎて予防の重要性を忘れてしまっていました。現在の歯科治療ではMIというコンセプトが主流ですが、治療以前の予防について議論されることは非常に少ないと思われます。確かに治療技術習得は必要です。しかし予防が可能であれば、そもそも治療自体が必要ではなくなるということを決して忘れてはいけないと感じました。

また、熊谷先生の「小さな完成品を育てない、大きな未完成品を送り出す」というスタッフ教育に対する考え方に非常に興味をもちました。私はまだまだ未完成品で、それゆえに無限の可能性があると信じています。今後もグローバルな視点で歯科医療を見つめ、日々研鑽しようと思います。

歯科医師としての第一歩を踏み出す時期に、こ

のようなお話を聴けたのは非常に有意義だと思います。熊谷先生をはじめスタッフの皆様に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

山本大二郎(滋賀県勤務医・卒後1年目)

●目指すべき歯科医師とは

「充填、クラウンが必要となったら腕の確かな人に頼みたい。しかし、本当はカリエスになりたくない」。歯科医師にとって本当に大事なことは何なのかを改めて考えさせられた言葉でした。

私は今年6年生となり、昨年10月から臨床実習を行っています。必要以上に患者さんに侵襲を与えてしまっているのではないかと感じ、実習の



合間に形成の練習などを行うことで不安を少しでも解消しようとしています。しかし今回のセミナーで、歯科医師は D. D. S. ではなく Oral Physician であるべきとの考えを聴き、チェアサイドでの技術を向上させるとともに、侵襲を与えないためにはどうすればよいのかを考え、学ぶことの重要性を改めて認識しました。

日吉歯科診療所のスタッフの方々には“歯科診療所の役割は生涯を通じた口腔の健康の維持と健全な機能の全うである”という考えをもっておられました。さらに、その考えを伝える活動を積極的に行うことで、メンテナンス中心の新しい歯科医療を広げようという強い意思を感じました。

セミナー終了後にはスタッフの方々とは直接お話をさせていただき、私と近い世代である歯科医師の方々、真の患者利益を追求するという診療哲学をもち、開業に向けた具体的なビジョンを抱いていることに、驚きと尊敬の念を抱きました。私はその姿を見習い、まずは残りの学生生活 1 年間でしっかりと学び、明確な診療哲学をもった Oral Physician を目指していこうと思います。

渡部平馬（新潟大学歯学部 6 年生）

●閉塞感を吹き飛ばす

今回、熊谷先生のお話を伺い、歯科医師として若い間に学んでおくべきコアな部分を教えてください、という印象を受けました。私は現在、大学にて研修を受けていますが、友人が大学外で多くの症例を経験している、社会人大学院生になっているなどと聞き、若干焦りもありました。

しかしこのセミナーで、自分がなりたい歯科医師像をまずもつこと、というお話を聴き、理想像を見つけるきっかけができれば、この 1 年は有意義なものになる、と考えることができました。

Oral Physician という熊谷先生の姿は輝かしい歯科医師像です。同時に、専門医の先生や、研究者の先生がいらっしゃることで日本の歯科医療が成り立っているのを実感できました。今後、歯科界でも一層のグローバル化が進んでいくなかで、世界の歯科治療を学んでいくことの必要性も今回のセミナーで学ぶことができました。

また、日吉歯科診療所の先生方が、生き生きとされていたことが強く印象に残りました。今の歯

科界にある閉塞感を間接的には感じていましたが、それを吹き飛ばすようなパワーをおもちでした。今回のセミナーで、研修医としても社会人としても良いスタートを踏み出せたと思います。

勝又正平（東北大学病院付属歯科医療センター・卒後 1 年目）

●これからの歯科衛生士

歯科衛生士の資格を取得し、大学に編入してから 1 年。アシスタント業務を中心とする歯科衛生士が少なくないなか、もっと患者さんの役に立つことができないだろうかと考えていたときに、熊谷先生のお話を聴く機会がありました。

日吉歯科診療所では、歯科衛生士が一人一台のチェアをもち、中心となってメンテナンスを行っているのと同じ、意識レベルの高さに驚くとともに、自分がやりたいのはこのようなことだ!! と思い、是非もう一度お話を聴き、現場を見てみたいと思います。今回のセミナーに参加しました。

私は今まで、一人でも多くの患者さんの歯周疾患を治す手助けをしたいと思っていましたが、大切なのはそれ以前のことでした。疾患になる前の予防、メンテナンスがいかに重要かを感じ、患者さんにそれを理解してもらうための幅広い知識や技術、そして信頼関係を築くことの大切さを学ばせていただきました。また、歯科衛生士は、その過程に大きくかかわることのできる、非常にやりがいのある職業だと改めて実感できました。

熊谷先生のお言葉通り、歯科衛生士というライセンスをもって働いていくからには、常に向上心をもって学び、メンテナンスのプロフェッショナルになれるよう取り組んでいきたいと思えます。新たな気づきと希望を与えてくださった先生をはじめ、スタッフの皆様に深く感謝いたします。

今井千鶴（新潟大学歯学部口腔生命福祉学科 4 年生）

2008 年度「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」開催予定

日 時：11 月 23 日（日）

場 所：山形県酒田市・日吉歯科診療所

申込先：SAT 事務局

Tel. 03-5808-2505, Fax. 03-5808-2506

<http://www.sat-iso.net>